

## テーマ：ドキュメンテーションを通じて保護者とどう対話を図るか？

### —「見える化」への模索、挑戦、協働へのプロセス—

石川県私立幼稚園協会 実践学会特別プロジェクトチーム

共同研究者 虫明 淑子（北陸学院大学）

#### ◇趣旨概要

本発表は、ドキュメンテーションを通じて保育を保護者に伝える各園の取り組み、また、地区の研修で情報交換し、保育の質を向上する協働プロセスについての報告である。コロナ禍でのドキュメンテーションの効果は、保護者のみならず、保育者の力量形成や園全体の活性化につながった例は多く挙げられるものの、課題について十分に共有されていない。そこで今回は、保護者との対話が進む、深まるために「どうすればもっとよいドキュメンテーションがつかれるのか」に焦点を当て、検討する。

#### ◇課題意識

この研究の背景には次のような課題意識がある。言わずと知れたドキュメンテーションは、イタリアのレッジョエミリア市の幼児教育方法からヒントを得た、園での子どもの様子を記録（写真、動画、音声含む）する手法。記録をもとに、子どもの視点に立った保育の振り返りと次の保育計画に活かしていくことを目的とし、同時に保育を保護者に理解してもらい効果も期待できることから、近年日本においても各施設で様々なドキュメンテーションが作成されている。一方、元来日本の保育現場では園便りやクラス便りなど手書きの文章にイラストをつけるような手紙形式で、保育の様子などを保護者などに伝える文化も続いている。現在は従来の紙媒体からアプリでの配信などを使うなど ICT を活用するケースもあり、今の若い子育て世帯の意識やツールに対応する新たなドキュメンテーションへの指向なども見られる。

こうした保育の「見える化」の多様性や拡がりの背景には、子ども子育て新制度や幼児教育の無償化など幼児期の教育の重要性の認識が行政や社会の中で高まり、各園の幼児教育の実情を地域社会、家庭に対してしっかり説明責任が果たしているのか、「開かれた教育課程」になっているか、ということが今改めて問われているからであろう。それも保育の内容そのもの（何をしたか？）から、一歩進めて、子どもがそこで「何を学んでいるのか？」という子どもの「学び」の質の読み取りと言語化、明示化が求められている。そのためには「学び」の読み取りと把握のための園内研修は、その園の保育の質を園のスタッフ自身が捉え直すうえで極めて重要であり、五領域や三つの資質能力、あるいは年長であれば10の姿などと照らし合わせながら、自園の教育課程での育ちの具体をわかりやすく家庭、地域（小学校含む）に発信していく力量が求められていよう。

そうした各園の様々な保育を「見える化」するプロセスを担う一つが各園での園内研修である。しかしながら園内研修そのものは、これまで保育の見える表舞台を支えている重要なパーツでありながら、「見える化」しづらく、ドキュメンテーションとしては余り題材にはなりにくいものだった、と思われる。

以下、石川県私立幼稚園協会（以下、石私幼と略）が実践をした園内研修の「見える化」の取り組み及び具体例を紹介し、そこで浮かび上がる課題について、その解決、改善に向けた模索、挑戦、協働への新たな取り組みについても併せて報告する。石私幼での取り組みを一つの題材に、ドキュメンテーションを通じて如何に保護者と対話が深まるか、より主体的、対話的、深い学びを教職員、保護者等が得られるようにドキュメンテーションはどうあればいいのか、そのための障壁、課題を明確にし、改善に向けた試行的な模索、挑戦、協働の在りようについても考察を行うものとする。

## I.研究の実践と経緯から・・・

### (1) ポスター製作の呼びかけと各園の実践(2020年4月～2021年2月末日)

令和2年度春、新型コロナの感染拡大を受けて緊急事態宣言が出され、石私幼でも対面型研修が組みにくい状況が生じていた。一方で各園の「巣籠り」園内研修が逆に充実している状況も生まれていることもあり、そうした各園の園内研修をフォローするために各園で実施した園内研修をポスター形式でまとめ、園内に掲示、保護者への発信、そのポスターの画像を協会HP上に発表してもらおうポスター製作発表を加盟園に呼び掛けた。(注1)

各園での園内研修の実施及びポスター製作期間は、令和2年4月1日～令和3年2月末日。テーマについては研修俯瞰図記号に該当するものであればなんでも良く、各園の課題の中で普段行っている園内研修でもよし、これを機に見直したり、新規に立ち上げる園内研修でもよし、つまりなんでも良い、と幅を広く持たせて呼びかけることとした。

ポスターの製作は、サイズと枚数に一応作成する際の目安を設けたが、ポスターへのイメージをつけやすいように、以前、幼児教育実践学会での掲示に活用した加盟園のポスターの使用例を挙げつつ、より石私幼の加盟園には身近で馴染みのある「幼どこ？」(注2)で作製している壁新聞を例示として伝え、サイズに関しては最大90cm×180cmとして各園のカラーでポスター製作の特色を出してもらえるよう促してみた。

その結果、加盟園56園中、23園が応募し、各園でそれぞれ行っている園内研修の中から一つ(あるいは複数)テーマを設け、その概要をポスターとしてまとめ、出来上がり次第、各園内に保護者向けに掲示してもらおう一方、その画像を石私幼事務局まで送付してもらった。石私幼HP上の加盟園ページにポスター掲示の枠を用意し、提出された各園の取り組みテーマ・内容を整理し、「保育実践」、「コロナ禍の保育」、「特別支援」、「環境・実践」の4つの大きな分類に区分けし発表した。(注3)

### (2) ポスター発表交流研修会の企画

各園のポスター画像の提出、発表を受け、令和2年度末の年3月26日(金)、29日(月)の二日間にわたり、各園で作製した園内研修ポスターの発表交流オンライン研修会を開催した。折角のポスター、石私幼HPだけではもったいないので、各園で相互交流できるよう、またポスター製作していない園も参加を促し、幅広い参加者を募り、当初は会場を設け、幼児教育実践学会のポスター発表の形態をイメージし、会場内での参加者による対面式相互訪問の形態を狙っていた。ただコロナ禍でもあり、年度末の日程設定という非常にタイトな時期でもあったので、加盟園の教職員がより参加しやすいオンラインでの交流形態に切り替えて開催した(2日間で延べ47名参加)。

具体的には、交流会の参加者でポスター発表のプレゼンを希望する園のポスターの発表(2日間で延べ11園)を1園あたり制限時間内(5分)で行い、プレゼン終了後、3グループに分かれてグループディスカッションで、次の三つの視点で討議を行った。

- ① テーマ、内容についての理解を深める。(特別支援・環境・コロナ禍の保育・保育実践)
- ② 園内研修をどのように組み立てているか、園内研修を活性化する工夫や仕掛け、園内研修をリードする人材の育成などの課題、その改善の手立てを検討する。
- ③ 自園の保育、教育課程や子どもの学びなどの発信、見える化の具合や工夫をどのように進めていくか、ドキュメンテーションの在りようを考える。

終了後、参加者からのレポートからは「学びになった」という声が多く挙がり、特に②③の各園の園内研修の工夫やその内容に関しての情報交換が新鮮だったようで、様々な刺激を受けて自園に持ち帰って参考にし

ていきたい、という回答を多く得た。また、園内研修の持ち方や保護者への発信の仕方など、自園だけの悩みではなく共通する課題も多いことが共有され、その改善、解決のための具体化への糸口を考えるきっかけにもなった。(注4)

### (3) ポスター製作・発表・交流研修等アンケート結果から

各園のポスター製作、そしてポスター発表交流研修会を終えて後、各園にアンケートを実施した。(2021年5月集計 注5) 集約し、以下のような点が整理できた。

#### <園内研修からポスター製作、掲示の基本情報>

- \* まず園内研修実践者については、主任、正規職員がメインで園長も加わるケースが大半。パート職員を加えて行っている、園長、副園長、主任なしの職員のみで行っている園、あるいは園児、保護者参加という園も少数ながらあった。(園児は研修の対象として、という意味かと思われるが。)
- \* 「見える化」のポスター製作になると研修実施者に比べると限られた人数(役職)で行っている園が大半であり、園内研修の実践者の中から代表者が作成されている傾向が強い。
- \* ポスターの掲示場所としては、比較的、外から来て目につきやすい玄関付近が一番多く、中には園内(ホール、階段、園庭)などに掲示する園もあった。

#### <ポスター製作、掲示等の成果>

- ① ポスターによる「見える化」の手ごたえとしては、職員間の振り返り、共有、ステップアップ、保育の見直し、育ちの理解や子ども理解の再確認、職員の意識改革、研修に参加できない職員(パート含む)への保育理解など、主に園内職員にとっての有効であることが多く挙げられた。
- ② ポスターの効果として園内掲示により園児が(主に画像)見ていることで、園児自身が保育の場面を振り返ったり語り合ったりする姿もあった、と回答する園も複数あり、この点は主に狙っているわけではないものの、副次的な効果として園児が自らの姿を捉え直すきっかけにもなっていた。
- ③ また保護者に伝えるきっかけ、伝えやすく伝えることを意識する、伝え方の工夫など発信のツールとしての意識化にもなる、という意見も挙げられ、保護者に対し、園の保育理解、子ども理解、職員の連携や交流、職員たちのスキルアップなどへの保護者の理解の一助にもつながったという意見も挙げられた。

#### <ポスター製作並びに各園でおこなっている見える化の課題>

- ① 職員自身の意識の問題(温度差)、その共有、園内研修の組み立てや喋りやすい雰囲気づくりなど、園内の同僚性、温度差の課題として、そもそも見える化の取り組み以前(前提)の課題を挙げる園もあった。
- ② またポスター製作全体を通じて、実務的な要素(時間の捻出、人員の課題、ノウハウ、個人情報)が二つ目の課題として多く挙げられた。時間の捻出、人員の配置、人のやりくり、ポスターの作製イメージや見やすさへの難しさ、作り方のノウハウ、あるいはテーマゆえの職員の学びをそのまま「見える化」できない保護者には「見せられない」個人情報の壁、ジレンマも挙げる園もあった。
- ③ ポスターでの発信の課題としては、コロナ禍を反映して、保護者がしっかり目を通してしているか、ポスターの内容へのインパクト、反応、返しなどが弱いことが課題として多く挙げられた。コロナ禍でもあり保護者の園の出入りも制限を受けている中で、保護者への発信ツールとしては十分とは言い難い、というのが大半の園の状況だったようだ。また中身に関しても「先生たちも頑張っているね・・・」というのは伝わっていても、本当に伝えたい真意まで理解されているか、この辺りは不明である。コロナの状況故に保護者の出入りが制限されている園が多い中、その点を差し引いても、伝えたい内容を如何に分かりやすく伝えるか、発信側の想いと内容の量質を如何に「分かりやく」、今どきの子育て世代に響く(理解される)

ようにどう作るのか・・・?というジレンマ、葛藤が多くの園で浮かび上がった。保護者（社会）に対して、十分に伝わり、それが園に返ってきているか、ドキュメンテーションの中身の理解が深められているか、という点が共通する課題として多くの園から挙げられた。

#### < 4 > 2020 年度ポスター製作に関わる園内研修と保護者発信の個別事例・・・M 幼稚園から

以下、各園ポスター発表に関して（注3の応募園一覧参照）、M 幼稚園の取り組みを一例に挙げる。

テーマ 特別支援「7分間の映像で研修を！-「つながる」協働的な研修がインクルーシブな園生活を拓く-

##### (1) 園内研修のプロセス

「みんなで映像を見て話す」ことは M 幼稚園の日常。園内研修としてスタッフ全員あるいは限定メンバーで行うことも、保育者と保護者で行うことも、保護者主催で行われることもあり、ポスター製作の報告は、A くん（5 歳児）と B 先生の関わりの場面の 7 分間の映像を用いて行われた 4 つの研修的集まりでの概要とその連続的な繋がり（発見）から、どのように保育につながったかの（次の指導計画へ）の記録をポスターにまとめた。（当初申し込み時では研修①をポスターとして想定。しかし、その後①から生まれた映像の一つから②、③へと派生し、年度末研修として正規スタッフ全員参加の研修でも活用したことから、一体的な繋がりあるものとしてポスターでまとめることとなった。）

研修	概要	日程	参加者
研修①インリアル二年目研修（注6）	B先生の三回のビデオ分析	9月～11月(月1回) 15:30-18:30	スタッフ5名 相談室
研修②キラキラ会11月例会（注7）	AくんとB先生との7分間映像によるビデオトーク（注9）	11月27日 12:30-14:00	（保護者3名と園スタッフ2名 相談室）
研修③保護者会おしゃべりDay（注8） 「M園流スタイル インクルーシブ保育の謎を解け！！」		12月8日 9:30-12:00	長土堀青少年交流センターにて 36名（保護者33名と園スタッフ2名 相談室）
研修④学期末教員園内研修 「特別な支援の指導計画につながる子どもの学びの読み取り」	AくんとB先生との7分間映像によるビデオトーク。10の姿の学び発掘と次の支援の整理	12月25日 10:30-12:15	スタッフ14名 相談室 その後、「育ちのノート」整理にも活用。（注10）

##### (2) ポスター製作のプロセス

当初ポスター製作は研修①を想定。しかし、同じ映像をもとにした連続的な研修が続き、一連のものをポスターでまとめることとする。

作製の主軸は全ての研修に参加している B 先生が担い、監修・アドバイスは相談室の先生。保護者、一般の外部の人が見て読んでわかるようなピン止めの解説（前期注釈5～10）がいくつかあるので、経験年数のあるスタッフがそれらの解説版とその作製（ポケット版）を担い、全体のポスターレイアウトは主任及び若手スタッフが担当する。（なおピン止め解説中の「M 幼稚園版 10 の姿」は全体レイアウトは園長、構成と 10 の姿の概要は経験年数 14 年のベテランが担い、10 の姿の具体的なエピソードは現年長から直近の卒園生ふくめた年長児の姿を 10 人のスタッフがそれぞれ担当。）

各自での担当分野の執筆、修正、確認等を行い、全体でポスターレイアウトの確認と製作を一夜漬けで完了。

掲示場所はホール階段の踊り場とし、2 月末日から 3 月いっぱい（卒園式前まで）で掲示。（その後、現在は保護者会が使用する会議室に掲示中。）

課題は保護者にどこまで伝わったか？ コロナ禍もあり掲示場所も階段踊り場という場所のため目に入り

づらく、年長保護者たち中心に覗いている風景はあったものの、保護者の反応（声）がスタッフには今一つ明確ではなかった。保護者との対話が深まるツールとしての見える化が、今後の課題として職員に意識された。

## II 課題の提起と新たな模索、挑戦、協働へ・・・

### < 1 > 課題の整理、提起と新たな模索、挑戦の取り組み

以下、議論を深めるための課題の整理と提起、そして新たな模索、挑戦をしている事例の報告である。

#### (1) 課題の整理と提起～「ドキュメンテーションを作るにあたって何が問題なんだろう?!」

～石川県私立幼稚園協会が行ったアンケートの結果を受けて～ K 幼稚園 (注 11)

##### 【課題提起】

日々の保育の中、なかなか園内研修の時間が取れない状況に加え、コロナ禍で集まること、園内で話し合う時間がより削減される中で、研修の在り方を、また、研修する方法を考え、石川県私立幼稚園協会加盟園が取り組んだ「ドキュメンテーションを用いたポスター発表」。ドキュメンテーションを用いた園内研修を通して、自園が感じたこと、また、参加園等から聞かれた課題を提起しながら、園内研修をするにあたっての悩みや思いを共有し、より有意義な話し合いができる糸口を探っていききたい。

##### 【事例発表】

#### ① 「ドキュメンテーションを作るにあたって 何が問題なんだろう?」

今回のテーマである「ドキュメンテーションを通じて保護者にどう対話を図るか?」。

そもそも保護者との対話の前に、まず職員間の話し合いや共通理解ができているのだろうか? ドキュメンテーションを用いて子どもの様子を伝えるだけでなく、子ども理解・育ちを伝えることができているだろうか? 今回のドキュメンテーションという手法を用いた園内研修、園内の話し合いから、どんな課題や改善、または、疑問が出てきたのかを紐解いていきたい。

#### ② 「保育の質を高め合える話し合いや意見交換がしたい」

自園は、今回のポスター発表に「職員間で、保育の質を高め合える有意義な話し合いや意見交換ができたらな」という思いから参加した。そして、取り組む中で、見えてきたことがたくさんあった。

#### ③ 「自園では・・・」

自園で取り組む中で、やはり時間がなかなか取れない、職員間の共通認識・共通理解を持つことの難しさ、職員間の温度差も痛感していくこととなった。

#### ④ 「自園の保育を見直すことができた!」

ポスター発表後のアンケートの中で、参加してよかったことは? の問いには、「自園の保育を見つめなおすことができた!」「職員全体で自園の課題について共通理解ができた」など参加してよかった、次の改善につながった、共通理解ができたという声が聞かれた。

#### ⑤ 「そもそも・・・どうやって作るの?」

でもその反面、「園内の職員の全員の思いや保育を一枚のポスターに可視化していく過程が慣れなかった」という声や「テーマや題材を決めるにあたってなかなか話がまとまらなかった」という声も聞かれた。

#### ⑥ 「やっぱり、職員みんなで話し合わない・・・」

ポスター発表に参加した園からも様々な声が聞かれたが、共通理解や共通意識、保育の質を互いに高め合うためには、やはり話し合いは大切だ! 前に進みたい! と感じた。

## ⑦ 「勤務時間内にできる?!」「どうやってまとめたの?」

しかし、実際やってみようとする、日々の保育に追われ、コロナ禍の行事の変更・見直しに時間を費やし、園内研修で話し合う時間の取り方が難しいことや職員間の話し合いをまとめる難しさ、全職員が意見を言い合える園内研修の在り方、雰囲気づくり等々、自園、もしくは各参加園の課題や悩みは尽きない。

Q.1 (全国の)皆さんの園ではどのような取り組み方をし、時間の制約や教職員の温度差を解消するためにどのような工夫をされているのだろうか?

## (2) 新たな取り組みの模索、挑戦

～「ドキュメンテーションの作成にあたりどこから改善するか」 Y幼稚園 (注12)

### 【実践発表】

昨年ポスター発表研修の際、職員全員で時間を共有し学ぶことの大切さを実感するとともに、日々の保育の中、保育者全員で時間を作ることの難しさを痛感。又、職員間での取り組みを保護者へ分かり易く伝え相互して理解しやすくなるように、職員間での語り合いが今とても必要だと考え、まず初めに園の終礼を全員で行う試みを行う。

#### ① 「終礼は全員で・・・」

園の保育者の思いとしては、その日の出来事をすぐに話したいやその場にはいない保育者に話し合いの内容を伝えるって難しいなどの意見があった。やはり終礼は全員で子どものことを語り合う場にしたいと確信。

#### ② 「終礼を全員でするには」

終礼を全員でするために行ったことは、延長保育を利用する園児数の把握をした上で延長保育を担当していた保育者(担任)の時間の確保をするため、保育者の増員を試みたこと。

#### ③ 「終礼を全員で行えたことによって」

1. メモで伝えていたことを一度に共有できるようになった。これは今までその場にはいない保育者へメモを残して伝えていたため、文章の解釈の違いやニュアンスがうまく伝わらないことで共通理解できておらず困ることがあった。
2. 問題解決への共有がその場でできるようになった。これもたくさんの保育者の考えや意見を一度に共有することで振り返りから明日の保育に繋げる意識付けとなった。
3. タイムリーなやり取りの中に普段見落としがち大切なことがあったことに気づく機会となった。自身の頭の中で考えていることを他の保育者が口にすることで、自分だけではなく同じ考え方の人がいることや、いろいろな考えに触れる機会となり、同僚性や協働的な関係性を作るきっかけとなった。

#### ④ 「ある日の終礼で(事例)」

保護者から担任を通じてブログ更新をもっと頻繁にしてほしいとの要望があった。これはコロナ禍で、行事活動が大幅に変化したこと、更に発信した写真は今年度初めてのもので保護者の期待がとても大きかったこともあり、保育者も保護者の思いを受けて、どのような改善策があるかをみんなで語り合った。

#### ⑤ 「保護者への対応」

保護者への対応として、「自分の子どもが写っていない」「発信の頻度」の2点に絞って写真選びの厳選他3つの点を保育者全員で共有して発信。保護者はすぐに改善策を講じてくれたことで納得し、「お忙しい時に細かいことを言ってしまうすみません」との返答。普段あまりお話しをご自分からされない保護

者だったので嬉しい言葉を聞いて、全員で解決できたと実感した。

#### ⑥「ドキュメンテーションの作成によって保護者の要望を改善できないか」

今回、子どものことを語り合う時間を作る試みから全員で行う終礼を目指して、保護者の要望に対する改善策を全員で模索し解決できたと実感。試行錯誤して保護者へ伝えるツールとして新たに始めた、短い動画や写真の発信についてぽつぽつと反響が出てきた。コロナ禍、来園の制約がある中、行事の際に玄関に掲示したポスターや写真でのつぶやきはこれからは更にチャレンジしなければならないドキュメンテーションである。ずっと継続していけるように当園なりの発信ができればよいと感じている。

#### ⑦「頑張らないでできるドキュメンテーションを使って」

コロナ禍におけるドキュメンテーションの効果は、保護者のみならず、保育者の語り合う姿勢の活性化にも繋がった。まだまだチャレンジはほんの始まりで手ごたえもわずかだが、ドキュメンテーションが自分と、同僚と、子どもと、保護者との対話のツールとなり日々の保育の質の向上へ向かうべくこれからもチャレンジしていきたい。

### Q.2 皆さんの園では、ドキュメンテーションを使って保護者とどのように対話を図っているのか？ あるいはどう対話を図るのがよいのか？

#### < 2 > 考察とまとめ

これまででの石私幼及び各園での取り組みからざっくりと以下のようにまとめられるであろう。

- i. 園内研修そのものの組み立て、園課題を見出し、子どもたちへ、保育へとフィードバックする活きた園内研修を構築する模索が続いている園が多くあること。
  - ii. さらにそれを「見える化」する（言語化し、分かりやすく明示する）挑戦が様々な手法で模索する中で、協働的なプロセスが営まれつつある園が多くあること。協働的の中身は、園内の職員間（学年・クラスの枠を超えた）、園長・主任・職員（パート含む）など縦の関係を越えた同僚性（あるいは保護者等関係者も含め）がみられる一方、「見える化」に取り組む以前（園内研修の段階）で様々な実務的な課題（教職員の共有、温度差、時間の捻出等々）にも直面していること。
  - iii. 「見える化」も保護者に中身が伝わっているか、コミュニケーションツールになる、対話的な関係が深まるドキュメンテーションになり得ているか、わかりやすさと伝えたい内容の量や質とのジレンマなども課題であること。
  - iv. しかし同時にそれらの課題を横に繋ぐ研修としての仕掛けを用意することで、各園の垣根を越えた枠組みでの園内研修やドキュメンテーションの在り方（見える化）をオープンに語り合う場、情報を交流し合う中で、少しずつでもヒントや刺激を得てステップアップするきっかけにつながっていること。
- i. 保育の質を担保、向上させていくうえで活きた園内研修の組み立て、同僚性（マンパワー）の発揮は最も根幹的な課題である。特に子ども園に移行した園の多くが、パートなどの非常勤職員も多くなり、正規職員もシフト勤務になる中で、園の目指す保育の理念、教育課程、指導計画等々を全職員の共有、理解のもとに行うことが難しくなりつつあり、この点を含めて、これからの時代に適応する園内研修の在りようは大きな課題の一つである。正規・パートの職分やベテラン、若手の経験年数を越え、園内スタッフ誰もが語り合え、同僚性を発揮し、自園の保育を向上させるために、やってみたい、面白い、もっと追求してみたい・・・そんな想いが募る各園、各教職員のテーマを見出すことが大事ではないか。（他園<他者>の比較ではなく、自園<自身>の成長を！見通せるテーマが見出せるか？）

- ii. 園内研修やドキュメンテーション製作には、人員配置、時間捻出、ドキュメンテーションの作り方、ノウハウ、個人情報保護など、実務的な障壁が大きい。多様化する保育機能に対応を迫られる一方で働き方改革の要請もあり、その狭間の中で、如何に実務的課題を乗り越えていくか、この点では、「見える化」する（園内研修→言語化、明示化等）取り組みを学年・クラスの枠を超え、園長・主任・職員（パート含む）など縦の関係を超えた一人一人の力や働き方が活かせる各園の工夫（これは労働環境や保育環境の運営基盤の質改善を含め）が求められている、と思われる。とはいえ与えられた環境の中で出来る限りの工夫を凝らし、テーマを見出し同じ方向に目を向けて、コミュニケーションをとり、保育の質の向上へのきっかけに繋げていく園も見られた。職員間での対話の促進、同僚性の発揮を図り、ポスター（あるいは各種「見える化」ツール）を活用することで保護者との建設的な対話が生まれている取り組みも見られた。
- iii. そのうえで、今の若い子育て世帯に分かりやすく伝えることと、その内容を本質のところを外さずに「見える化」の中に言語化して盛り込むことのジレンマが大きな課題。ドキュメンテーションも作っただけでは自己満足。相手に届くようにどう見える化の工夫を凝らし、子どもの育ちに資する話題に対話が深まるか、この点の追究が大きなポイントであろう。ポイントは「子どもの育ち、学び」。親の見たいもの、という保護者要望に捉われすぎると子どもの育ちを置き去りにしかねない。ポスターを掲示することで保護者への対話を図るツールとしての一歩目になっている。園が伝えたい核心を外さずに、完ぺきなものでもない「隙間」や「余白」、多様な視点、解釈の「余地」なども残し、家庭や地域などとの対話を通じてドキュメンテーションがより追加、補足、加筆されていく、保護者と共に子どもの育ちを協働でフォーカスしていくような、継続していくドキュメンテーションなどの事例研究なども今後、検討したい点である。
- iv. そうした課題の改善に向けて、自園のみでは限界がある。課題を乗り越えるために（アイデア、方策など）を保護者や社会（例えば地域、養成校など）、あるいは協会加盟園の他の現場の先生にまで拡げること、行き詰っていた課題も乗り越えていくヒントなどが得られる可能性の「引き出し」は大きい、と思われる。園内研修の改善が進んだ事例、実務的課題が払しょくされた事例、保護者との対話が深まっている事例、あるいは逆に滞っている事例など交流会などを通じて、なぜそうなのか？背景などを情報交流しながら追究し、改善に向けた手立てやヒントを出し合えれば、と思っている。「見える化」をツールに各園を繋ぐ仕掛けを協会が研修事業の一環として用意し、各園の刺激剤、ヒント、対話のきっかけに繋がり、各園間での情報交流、対話が促進される、次へのステップを考えるきっかけになっていくのでは？と考える。それも一過性ではなく、仕掛けとしての協働的な場を継続的、複合的に用意すること。課題がどう改善されていったか？振り返りの協働作業も協会研修事業の中に加えることで、より確かな保育の質の向上、及びその見える化、説得力のある説明責任を果たせる地域横断的な地力になる、と思われる。

### < 3 > 石私幼のこれからの模索、挑戦、協働へのプロセス

#### （１）ポスター発表２期目（2021年度）の呼びかけと実践

新型コロナウイルス感染拡大防止を図り、かつ学びあう機会を確保し、保護者へ各園の保育について発信する機会として、各園で実施している園内研修をポスター発表という形式で、今年度も引き続きポスター発表への補助金を出す呼びかけを行っている。（19園申し込み）

#### （２）ポスター発表交流研修会（２回目）の企画

前年度の反省を生かし、年度末の忙しい時期の前にポスター発表の交流研修会を企画。また交流の在りようも昨年度課題をより深められるような中身に再検討をして開催を予定している。

### (3) 金沢支部研修の新たな「見える化」研究会の発足

また令和3年度の金沢支部研修(注13)において、ドキュメンテーションやポートフォリオなど「見える化」をテーマにした新たな研究会を発足。年間5回程度を予定。(テーマ:子どもの育ち・成長を「見える化」するためには ねらい:子どもの育ち・成長を保護者に分かりやすく発信することで、信頼関係を築いていく。自分の保育の振り返りに活用する。)1回目を終えて(参加者22名)、各園の見える化の現状と課題を話し合い、その具体化に向けて、現在取り組み中である。

### (4) その他の園内研修に関わる協働的研修プログラムなど

また石私幼では園内研修の組み方、あるいは園内研修を担える人材育成などの研修もここ数年継続的に行っている。また園長(あるいは副園長等)が担う研修委員会の下部組織に、若手の園長候補や各園の主任、あるいは今後の主任候補の現場保育者等から公募し、手を挙げた研修プロジェクトチームなども2年前に編成。これまでにない研修プログラムの提案など、斬新な風を吹き込んでもらっている。(注14)

### 結びに代えて・・・

現状ではまだ取り組みの経過途中の報告と言わざるを得ないが、各園の取り組みを横糸に、園の垣根を越えて取り組むポスター発表やその交流研修会等の協会としての研修の仕掛けを縦糸に織り込みながら、各園での取り組みにしる、協会事業としての協働的研修にしる、単発ではなく持続可能な継続、発展を図っていきたい。学び合い、育ち合い、リスペクトし合える、ワンチームの協働的な繋がり風土・文化を基盤に、それぞれの園で志向するドキュメンテーションをよりステップアップしていくきっかけを与えていけるよう、各園相互に刺激し合い、どのように「化学反応」を起こし、保護者、地域とよりよい対話としてのツールとして活用していくのか、楽しみでもある。他園との比較ではなく、拙くても自園のスタッフたち自らが自らの手でスキルアップできる、保護者との対話が深まるドキュメンテーションを目指せるような、そんなきっかけ作りの場として、地域での開かれた教育環境を創造し、石川という地域全域での教育・保育の質の向上に向けた役割を担えるよう今後も努力していきたい、と思う。

注釈・・

(注1) 園内研修のポスター発表と補助金のご案内<加盟園への呼びかけ> (一社) 石川県私立幼稚園協会

【趣旨】

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、当協会でも大人数を集めての行事や研修を実施することができません。そのような中でも学びあう機会を確保していただきたく、各園で実施している園内研修をポスター発表という形式で報告する園に対して協会が補助金を出すことにいたしました。また、各園のポスターを協会 HP インターネット上で発表いただき、交流できる場も設けたいと考えております。

園内研修を行い、先生方が仲間に支えられながら自信をもつことができたり、課題を明確にしたり、園の質を高めていくことが目的です。また場合によっては外部から講師やアドバイザーを迎え、園内研修に加わっていただくのもよろしいかと思います。

【開催条件】

補助金額： 1園あたり 50,000円

※講師謝金などで補助金額以上に経費がかかった場合は各園でご負担ください。

開催時期： 令和3年2月末まで

※すでに実施済みの園内研修でも構いません。(令和2年4月1日以降実施のもの)

開催場所： 各幼稚園・認定こども園※ポスターの掲示場所として。保護者や地域等に発信するツールにも活用できる

テーマ： 自由

※但し 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研修俯瞰図番号の範囲

※教育課程・指導計画の見直しや環境構成、保育現場での実践の振り返りなどの他、コロナ対応など安全管理や運営、子育て支援、特別支援等々、各園が課題にしているテーマを内容にした園内研修であればなんでも OK です。また出来れば写真なども自由にご活用ください。

提出物： ポスター 1枚~4枚・形は右図のような縦長です。 (略)

・画びょうで貼り付けられる厚さ、重さ(幼どこ?の壁新聞のイメージで)

(注2) 幼どこ?…石川県私立幼稚園協会が毎年実施している未就園児とその家庭を対象にしたイベント、「幼稚園ってどんなところ?」の略称。金沢市民芸術村を会場に音楽・造形・製作・劇・身体表現などの遊びブースを各園からの現場の先生を委員に創設。その会場の一角に幼稚園紹介コーナーを設け、加盟園のそれぞれの手作りの園紹介の壁新聞を掲示している。



幼稚園ってどんなところ? ピット1「幼稚園紹介コーナー」(左)  
幼どこ?壁新聞の一例(右下)



(注3) 石私幼 HP (左)



各ジャンルをクリックすると各園ポスターの一覧が表示。各園のテーマをクリックするとポスター画像が表示される。

令和2年度 園内研修 ポスター発表 応募園

園名	カテゴリー	テーマ	概要
A幼稚園	保育実践	教師の質の向上に向けて	こどもの力を引き出すために、学年会の機会をもち、更に他学年の教師と意見交換をしながら子供の姿を読み取り意見を共有し良い保育を考えていく
B幼稚園	保育実践	子どもの思いとは？～心の扉をノックしよう～	普段のささいな子供の発言や行動にはどんな意図や思いがあるのか。一つの制作をみんなでしていても一人一人の思いは違うはず。その子供の思いに寄り添う保育者としてみんなでその“思い”について深く考えていきます。
C幼稚園	保育実践	4歳児クラスにおいて、一年間の遊びを振り返って考察する	3学期に展開された遊びの中でみられた、様々な学びが、一年間の遊びの中で、どのように育まれてきたのかを写真や記録を通して振り返り、遊びの重要性をみんなで共有する。
D幼稚園	保育実践	4歳児の発達と保育教諭のかかわり	2月のお店屋さんごっこに向け、廃材を利用して子どもたちの活動に保育教諭がどこまでかかわりまた援助すればよいのか。
E幼稚園	保育実践	3歳児の音楽指導方法と学び	ピアノの進め方や時間のかかる子供への具体的なアプローチ法の見直しを行う
F幼稚園	保育実践	コロナ禍の中でみんなで考える『子ども真ん中保育』	コロナ禍の中、例年とは異なる保育が求められた今年度…。保育者達が園内研修を行い「①家庭との連携②遊びと環境の見直し③行事の見直し」の3つの視点から子どもを真ん中に置いた実践と振り返りをし次年度に向けての課題を考える
G幼稚園 H幼稚園	保育実践	グループ討論「事例から考える子供への対応」	今年度初めての園内研修であり、メロン幼稚園・明成幼稚園両園の日常の保育から考えられる子供の姿を事例をもとに職員で関わり方を考えていく内容です。その他にも職員間の交流を図るためゲームを通して楽しい時間も過ごす内容となっています。
I幼稚園	保育実践	一人ひとりを大切にす園内研修	今年度、職員が参加したプロジェクト研修会で“アイスブレイク”“KPT法”という研修法を学びました。今年はその研修法を使ったグループワークを通し、秋の遠足をテーマに付箋を使って話し合い、模造紙にまとめて発表しました。
J幼稚園	コロナの中で	育ちの繋がり	自園の教育目標の一つに「体育(運動を通して元気な体と挑戦する気持ち・頑張る心を育てる)」掲げている。しかし、今年度はコロナウイルスの影響で例年通りの運動量の確保が難しく、家庭に協力を仰ぎ毎日継続できることを各年齢に応じた発信することにした。 満3歳児から4歳児は、園から体を動かすメニューの提案をする。5歳児では、自分で頑張りたいことを考えてメニューを決めてもらうこととする。就学前までに自分で考え、試し、見直しを持って行動できるようになるために育ちの繋がりを探りたい。
K幼稚園	コロナの中で	2020コロナ禍で見直した園生活の実践	新しい生活様式のもと園生活や行事にも変化があった。このチャンスに例年とは違った取り組みが見られた。保育実践を振り返る3つのサブテーマで考えてみました。《すくすく交流会》《自然の中で感じた事を通して》《It's a Small World》
L幼稚園	コロナの中で	コロナ禍をプラスととらえ、従来の保育を見直していこう	コロナ前後で保育をどのように変え、どのような成果があったのか、子どもの様子、教師の取り組みや思いをまとめ、次年度へつなげていくことを目指す。
C幼稚園	特別支援	緩やかな発達の子の成長を写真で振り返り、今後どのような援助が必要であるか考える	今年度より入園した3歳児男児K児についての指導と成長の記録をまとめる。 教師とのかかわり 集団の中から受ける刺激 ご家庭との連絡による指導、共通の理解の中で指導計画に従い保育を進めていく。成長したところ 成長が難しい点をまとめる。
M幼稚園	特別支援	子ども理解…配慮が必要な子どもたちの姿を捉えるために…	保育風景をビデオ撮影し、その映像を用いて子ども理解を職員間で共有する。配慮が必要な子どもたちの育ちの姿(特徴的なところなど)の理解を深めると共に、保育者が無意識にしている言動についても、その子にどう響いているのか？(対話的に学びが生まれているのか？ 阻害しているのか？ 等々)などを検証し、次につなげる作戦を検討、共有する園内研修。 木の花職員歴、2年目研修として毎年実施。(今年度は3人が各3つ実施。)
N幼稚園	特別支援	特別支援～園内の支援体制を見直す～	配慮を必要とする子の支援は、これまでは主に担任の先生が担ってきた。今回、職員それぞれの役割、特に特別支援コーディネーターの役割を明確にすることで、組織的な支援体制を築くことができるのではないかと検討してきた。定期的な事例検討を行い、職員間の共通理解を進めることができた。 また、保護者との信頼関係を築き、さらに関係機関との連携を図ることで、よりきめ細かい支援を、継続的に行うことを目指していく。
O幼稚園	環境・実践	子どもが夢中になって遊びこむために～私たちができること～	毎日の振り返りタイムを重視。短い時間の中で『自然：外遊び』『部屋遊び』の旬な子どもの遊び姿や遊びこめる環境設定について語り合ってきた。これらを月1回の園内研修へと繋ぎ、自園の良さや課題を様々な角度から意見を出し合い、可視化している。しかし、机上でも思いが一致していても現場との齟齬があるのも現実。そこで従来のティーチャーチェンジを活用し、『知ろう！見つけよう！気づこう！』を合言葉にお互いに刺激し合う活動を行い、教師同士がつながることで子ども同士の縦横のつながりや遊びが広がることで実感できた活動内容を紹介したい。
P幼稚園	環境・実践	園庭の自然物を生かした保育の実践	園庭の豊かな自然環境を生かし、保育に取り入れることで、子どもたちがどのような経験を、豊かな完成を育んでいくことができるかを話し合う。また、実際の経験から子どもたちへのかかわり方を学ぶ
Q幼稚園	環境・実践	森のようちえんの活動から子どもの学びや育ちを見直す	年間を通して行っている森のようちえん活動を振り返り、子どもたちにとってどのような学びや育ちがあるのかを、保育者の担当クラスや経験年数に関わらず意見を出し合いながら深めていく。
R幼稚園	環境・実践	自園における遊びと子供の姿について/新しい生活様式と環境の変化	学年・クラスという枠に捉われない関わり方や遊びを行うためにはどうしたら良いか。また自ら遊びを選択できる環境とはどのようなものなのか。それらを踏まえた園内研修を行っている。その際振り返りのために、子どもの動きや遊びが見える園庭MAPを作成し、遊びから考える子供の姿をポストイットなどを用いて考え保育者の学びにつなげている。
S幼稚園	環境・実践	保育環境を見直す	現在の保育室の物の配置や生活の流れが子どもたちの自主的な活動の妨げになっていないか見直し話し合った。この時の改善点や子どもたちにどのような影響があったかをまとめ、更なる保育の向上につなげた。
T幼稚園	環境・実践	自園の強みや長所を探ろう	自園の強みや特色を話し合いによって抽出。強みや特色をそれぞれまとめ、簡単な文書やイラストを使って表現する。コロナ禍にあって、従来の活動が制限される中で自園を見つめ直し、様々な制約の中でも特色を生かした保育を展開できるよう理解を深める。
U幼稚園	環境・実践	環境の構成の視点から5歳児が生き物を飼うということについて考える	近所の方から貰われてきたカメを飼育することになり、まずはどこで飼うのかから始まり、花壇の花を移し、その場に自分たちで土を運んだりして飼育できる環境を整えた。その後、エサは何が良いのか？ どのような環境でカメは遊ぶのか？ 等々、いろいろな意見を出しながら飼育していき、その過程で命について考えられるよう、指導していきたい。
W幼稚園	環境・実践	年齢ごとの面白環境設定 子ども目線になってみよう！	・毎回1名がお薦め絵本の読み聞かせと、クラスの子どもの遊びの様子について発表し感想等を述べる ・行事の確認や課題を職員間で確認する ・コロナ禍で異年齢活動が少なくクラスでの活動が増えた。そこで子どもの遊びについて各学年で話し合い、現実にはできないようなものでも子どもが楽しめることに視点を置き、クラス的环境設定を考えてみる。面白そうな案を選び、実際に環境を整えてみることで今までと違う環境のあり方に気付く。
X幼稚園	環境・実践	食育、陰陽表を用いたの学びと幼児食とのつながり	日本CI協会の陰陽表を元に食物が及ぼす人間の体への変化を知り、幼児の体の好みから園での給食ならびに食育について学ぶを深める

(注4) ポスター発表交流研修会受講レポートより (以下、抜粋)

- ・園内研修をどのように活性化しているかについて、他園の様々な取り組みや工夫を知ることができた。若手が発言しやすいようにするための工夫や時間の取り方など、具体的なやり方を知ることができたので、早速取り入れていきたい。見える化に関しては、コロナ禍で保護者に発信するのは難しい面もあるが、パートの職員に自園の取り組みを知ってもらうことができるといふ園の話の聞き、自園ではこれまで正規の職員のみで園内研修を行い、パートの職員に発信してこなかったことに気づいた。今後は、保護者だけでなく、パートの職員、園児、地域に向けたポスターというものも考えていきたい。
- ・テーマ・内容に関しては、先生チェンジが非常に興味深かったです。自園でやっている小さいなチェンジ(学年内、あるいは隣接学年間の交替)ではない、園全体としての取り組みがおそらく園内の先生(特に若手の・・・あるいは中堅以下の・・・)に刺激と保育を振り返るきっかけになる、と同時に園内スタッフの見方や話し合いの活性化に繋がり、また子どもたちにも刺激が大きいのであろうと感じました。ちょっと園内研修の一環として試みてみたい、ところです。他にも特別支援、環境、保育実践など細かいところでの工夫を自園に取り入れ可能と感じる点がいくつもありました。
- ・保育をどうやって保護者に見せていくかを考える機会となりました。他園の取り組みを知ることができ、またそれぞれの園の工夫や悩みも知ることができ、自園でもやってみたいと思う内容がありました。思いを伝えたい相手(今回なら幼稚園の先生同士ですが、保護者や子どもにという場合も)に合わせた伝え方も学べたように思います。
- ・どの園でも保育者みんなが活発に意見をいえるように工夫をしていることがわかった。どの園もコロナ禍での自粛期間を無駄にせず、思い切って保育を変える園もあれば、あらためて自園が大切にしていることをじっくりと取り組む園もあり、その園その園の特徴が出ていて興味深かった。自園でも、園内研修の中で若い先生が発言することは課題ですが、その対策の一つとして、世代別にグループを作って話し合う時間を設けている園のお話を聞き、とてもいい方法だと思った。また、週にこの曜日は気になる子について話し合う、この曜日は来週の指導案について話し合うなど、曜日で決めておくのもいい方法だと思った。すべて真似をするのではなく、自園でできる方法を選んだり少し変えたりして、参考にしたいと思う。
- ・今年度、コロナの影響で例年通りの保育は難しかったが、できないではなく、できるためにはどうしたらいいかを考え、行動することが大切だと改めて実感した。このような状況でもリモートという形で他の園の取り組みを知れてとても勉強になりました。
- ・ズームという形での研修は、初めての体験となりましたが、新しい感覚で楽しく参加することが出来ました。日頃の保育中でも園内でのつながり、他園とのつながりを先生だけでなく子どもたちにも楽しくもてるのが可能になってくるのでは、と興味が膨らみました。また、色々な園がもつ園内研修の工夫やそこから広がる保育の工夫を共有できたことが自分にとって一番の学びでした。当たり前感覚になっていたことを見直し、目の前の子どもたちの姿を見て振り返り、また実行に移していけるといいなと思っています。
- ・今回、この研修に参加させていただき、他園のポスター発表に関する様々な取り組みを知ることができた。まず園内研修に関しては、自園で積極的に取り組み始めたのはここ数年の事で、まだまだ回数が足りないと感じた。時間がない中での他園の取り組み方を参考にして、今年度はいろいろな形で園内研修を増やしていきたいと思う。また、話しやすい雰囲気づくりや日々の保育を気軽に話し合えるちょっとした研修も取り入れていきたいと思う。
- ・ポスター発表の見える化に関しては、いかに分かりやすく、伝わりやすくするかというところで、誰が読んでも分かるように、0ベースで読んだときに分かるようにということがとても参考になったので、自園でも取り組んでいきたい。
- ・普段行っている園内研修をポスターで「見える化」ということで、職員でより一層話し合う機会が増えました。また作成するにあたって、プロジェクトを立ち上げたり、研修の内容を保護者に配信したりと新しい挑戦ができました。このことは今後も継続していきたいと思います。また、他園の園内研修の様子をポスターや発表などで知ることができ、とても有意義な期間となったと思います。特に、ZOOMで同じ課題を共有できたことは、解決へのヒントを見つけられたと共に、よしまた頑張ろう！という意欲につながりました。貴重な体験をありがとうございました。
- ・ZOOMでの研修は初めてで、グループ討議の際はやはり発言しにくい部分もありましたが、ファシリテーターさんがうま

く進めて頂き、私も勉強になりました。研修の内容としては、毎年課題にとらえている園内研修を各園の情報を交えて知ることが出来て良かったです。他の園の発表を聞いて、新たに取り組んでみたいことにも気づけたのでよい学びとなりました。自園の良さを再確認できるというのも園内研修の良いところの一つでありそこから課題にもつながるということ、風通しを良くする、時間の確保、対話の大切さなど多くのことを短時間で学ぶことが出来ました。ポスターを作成することで普段している園内研修を客観的にみることが出来、今後は保護者への発信についても考えていかななくては・・・と感じました。

- ・〇〇幼稚園の大胆な変革がとても参考になった。意味の分からない、連綿と続く園のルールをみんなで見直し、「子どもをまんなか」にするという共通意識を職員みんなが持っていこうという改革の様子が熱い発表からひしひしと伝わってきた。コロナ禍の状況を前向きにとらえた取り組みだった。グループトークではファシリテーターの先生がテンポよく進めて下さり、各園の事情を引き出ししてくれたおかげで、園内研修の時間のとりかた、方法、工夫など、各園の取り組みの情報交換がたくさんできたように思う。
- ・園内研の様子を通して、それぞれの園の保育を覗けた感じがします。コロナ禍の中、公開保育のような研修を行うことが出来ない中、ポスター発表から、各園の保育の工夫だったり、「コロナだから」とコロナ禍を利用して、行事の見直しをしたり・・・。「出来ない」ではなく、逆に良い方に舵を動かして、楽しもう！！としていたり、園の先生方のアイデアを覗くことが出来て良かったです。個人的には、グループディスカッションで、最後に保育の中で「見える化」をすることで、子どもも、保育者も、保護者にとっても「見ながら学べる」という話が出てきて、興味がありました。ポスターも「見える」の一つなので、保育の中で「見える」をどんなふうに取り入れていくといいのか・・・。それぞれの「見える」を学んでいけるといいと思いました。
- ・ポスターをどう活かすか？点で終わりにせず、どう次年度につなげていくか？そんな協働する研修のあり方について、示唆を受けました。コロナ禍での試みとしての園内研修のポスターは、各園でどう活かされているか？そこはまだコロナ禍でもあり、これから・・・という面が各園のお話から伺えました（保護者のリアクションなど）。園内研修を共有する、より活性化する、ツールとしては各園非常に有効に機能しているようでしたが、保護者（あるいは地域、社会）への発信、共有、さらに協働へ向けて、もう一步、スモールステップで各園がそれぞれアイディアを出し合えれば、と感じました。保育の見える化、わかりやすい発信は自園でも課題の一つです。

(注5) ポスター発表及びオンライン研修のアンケート結果<抜粋>

1. 昨年度ポスター製作をされましたか？ 回答 27 園中 はい 25 園 いいえ 2 園

<編集注 アンケートは加盟園全園に発信し回収した。ポスター製作はしたものの協会のポスター発表への申し込みを行っていない園もあるし、またポスター発表していない園でも自園の見える化、ドキュメンテーションをもとに回答を寄せている園もある。>

2. ポスターのテーマと実践、作成者、掲示場所について教えてください。(人数の記載は省略)

\*園内研修実践者は？

- ・園長+主任（主務、主幹教諭含む）+正規職員 ×多数
- ・園長+副園長+主任+職員(正規、事務、パート含む) ×複数園
- ・園長+主任+副主任+クラス担任、 ・園長+主任+正規職員+園児 ・園長+主任+正規職員+保護者
- ・園長+正規職員 ・園長+副園長 ・副園長+主任+正規職員
- ・正規職員（2名～16名、教諭、全職員）

\*ポスター作製者は？

- ・主幹教諭（主任）×4 園 ・主任+職員（2～8名）×4 園 正規職員（2名）×3 園 ・全教職員×2 園
- ・園長+主任+職員 8 名 ・園長+職員（4名） ・園長 ・副園長 ・事務局

#### \*掲示場所は？

- ・玄関付近×13園（園内玄関付近廊下 玄関前など含む） ・廊下×2園、
- ・遊戯室、ホール ・園庭（行事の際） ・ホール渡り廊下 ・階段踊り場

3. ポスターの「見える化」することでの反応、手ごたえはどうでしょうか？あればどのような点が具体的に教えてください。

#### \*園内教職員にとっては？

- ・取り組みを時系列で表示することで、子どもたちの学びの姿が明確にされ、職員の振り返りに役立った。
- ・他の学年の取り組みについて話し合い、共通理解が出来た。
- ・日々の保育の積み重ね、育ちの繋がりの大切さを改めて実感できた。
- ・園内研修に参加していないパートの職員にはポスターを通して、園内研修で学び合っていることを伝えることができています。
- ・成果が見えやすくなる。作成しながら振り返りができる。伝えやすくなる。
- ・普段していることではあるが、改めて目に見える形で研修の流れや学びを再認識することができた。
- ・様々な場所で遊んでいる子どもの姿を共有し、意見を出し合えたことで自分とは違う考え方、捉え方を知る機会となった。
- ・職員一人一人が、自園の保育を見直したり、次のSTEPへつなげることができたのではないかな。
- ・普段の保育から心がけて子どもの思いについてより考えるようになりました。
- ・どのような種類、内容の絵本を取り上げているかははっきりと分かった。ジャンルの偏りを意識し、選び方を考慮できるようになった。
- ・職員の共通理解を図れたとともに意識改革にも繋がりました。
- ・自分たちの振り返りをする良い機会になった。
- ・全職員で研修する時間をとることが難しい中、参加できなかった先生たちが研修の内容を共有するチャンスとはなっていたと思います。
- ・その都度内容を振り返ることが出来る。
- ・職員みんながいつでも見れるようになっていたので、共有し合ってみれたのが良かった。
- ・一年間の子供たちの成長がよくわかった。
- ・子どもたちが何に興味関心を持ち、またそのためにどんなことを子どもたちと話し合い環境を整えていったらよいかなどの気づきが多くあった。
- ・園内研修していることが保護者に伝わり、保護者からの質問等にいつでも答えられるようにしようと、職員の意識が高まった。
- ・社外（園外）アピールと振り返り。
- ・相手にわかりやすく伝えるということを意識していた。
- ・今まで「伝えたいのになかなか伝わらなかった思い」を、伝えやすかった。

#### \*保護者にとっては？

- ・園児のみならず、職員の学びの姿も知って頂け、幼児教育に周知に役立った。
- ・次の学年や卒園までの見通しが持てた。
- ・発表をみて、保育のねらいや先生の意図を知る機会となった。
- ・ポスターを見て、興味を持った保護者の方から質問等があった。
- ・園の取り組みを理解しやすくなる。
- ・コロナ禍の中で園内の様子が少しでもわかっていただき本当に行ってよかったです。
- ・立ち止まってポスターを見て下さる保護者もあり、とても良い。
- ・先生方も勉強しているんだという声もあった。

- ・幼稚園においての子どもたちの遊びのなかで何が発達しているかわかりやすい。
- ・職員間で交流する場面を伝えることで保育において連携に心がけていることを表せている。
- ・園が研修を行っていることを知る機会となり、先生のスキルアップが見える化できる。
- ・昨年度、園に入る機会も少なかった中で日頃の子どもの姿、園での遊びの様子を知って頂ける機会となった。
- ・文章だけでなく、イラストや写真を添えることで、関心が広がり、園の様子を知ってもらう機会となったのではないかな。
- ・コロナ禍の為、見て頂く時間を十分に取ることはできませんでしたが、ポスターだったことで園に入る機会のあった方が興味を持って目を向けて下さっていました。
- ・コロナ禍、保護者が園内には入れないため、見ていただく機会がなかったことが残念。
- ・「特別支援」ということだったが、どの子ども大切に見てますよ、どんな相談でもして下さいというスタンスで作成したつもりだったが、保護者には自分事として見てもらえなかったように思う。(興味を持って見ている方があまりいなかった)
- ・感染対策により保護者が園内に入ることが殆どなくなったので、保護者の方からの反応はいただけていないのが現状。今後園のホームページに記載し、伝えていきたい。
- ・園内に保護者が入れないため、ポスターはあまり目に入らなかったようだ。保護者には園だよりで研修について少し述べたが、特に保護者からの反応はなかった。
- ・コロナの流行もあり、園内に保護者が入る機会が少なかったためポスターを見る機会が少なかったように思う。

#### \*その他(例:園児や地域等)は？

- ・ポスターの写真を見て真似ようとする姿がある。(子ども同士)
- ・園内にはり出すことで、写真も含まれているため、興味を示してポスター(主に写真)を見る園児もいた。
- ・自分が写っていることが嬉しかったり、友達の写真を見つけて「〇〇の時の!!」などエピソードが語られていたり、沢山の反応があった。
- ・気にしてみている子もいました。
- ・子どもたちの活動を掲示すると、子ども達がとてもよく見ている。子ども達にとっても、自身の活動の振り返りになっているのではないかと感じた。親子での会話のきっかけにもなっていた。
- ・ポスターには子ども達が写っている写真もあったので、掲示中に興味を持って見ている子もいました。

#### 4. ポスター作製全体(園内研修やポスター作り、フィードバック等含む)を通じてよかったことは？

##### <成果と課題の整理と共有>

- ・学びの再確認、及び振り返りが分かりやすくなる。
- ・課題がみえてきた。その課題についてまた、学ぶ機会となった。
- ・食の好き嫌いは単なる味覚の問題ではなく、1人1人の体の調子や体質が大きく関わっていることがわかり、「好き嫌いをなくそう」など大人の価値観で判断してはいけない事がわかった。この学びにより、子どもへの関わり方の幅が広がった。また、職員自身も自分の体の声を聴き、自分を大事にすることに意識を持つことができた。
- ・成果が見えやすくなる。作成しながら振り返りができる。伝えやすくなる。
- ・ポスター作りを通し、順を追って自分なりの考えをまとめることができた。1年間の流れをわかりやすくまとめるのは大変だったがポスターが完成した際は達成感が感じられた。ポスター発表では、開先生より評価を頂き、気づいていなかった利点にも気づけたので発表させてもらえてとても良かったし、今後に生かしたいと思えた。
- ・ポスターとしてまとめる際に、改めて研修の内容を振り返ることができました。

##### <職員間でのコミュニケーション、チームワークへの有効>

- ・園内研修に向けての準備やそのフィードバックとしてポスター制作に取り組んだことで研修委員のメンバーとのチームワークを築くことができたと感じる。
- ・研修を行う事で、日々の保育について、職員間で話し合いができる。
- ・今、困っていることを研修を通じて伝えあいができる。
- ・みんなで意見を出し合い、コミュニケーションを取りながら、楽しく作製することができた。
- ・職員全体で課題について共通理解が出来た。
- ・両園で話し合った内容を見える形にすることで常日頃、目にすることができ作成する上でも職員への伝え方を意識して作れた。

#### <対話することで保護者などへの伝わりやすさを意識>

- ・自分一人で考えていた事、悩んでいた事も、職員同士話合う中で解決されたり保育を振り返る機会となった。
- ・日頃の保育の様子や子どもの姿をどうやって掲載すると保護者や第三者の方が見てわかりやすいか、気にかけてもらえるか、構成の仕方なども工夫すると良いことに気づけた。

#### <視点の広がり 自身の振り返り>

- ・職員間でいろんな意見を交換し、子どもをみる視点が広がりました。
- ・園内での研修を深める事ができたので良かった。
- ・教師全体がひとつのことについて話し合うことができた。他のクラスの活動を通して自分自身の保育を顧みる機会となった。

#### <保護者との連携への職員意識>

- ・研修を通して、特別支援に関してどのような関係機関があるのかを知ることができた。関係機関とつながるタイミング等を知り、特に保護者との連携の面で先生たちの意識に変化があった。

#### <保護者への発信>

- ・保護者に対して、教師みんなが子どものことを共通理解していることを伝えられた。

### 5. 苦勞した点（課題）はどこでしょう？

#### <見える化の工夫>

- ・ポスター制作自体初めてだったので、どのようなものを作ればよいのか分からず、取り掛かりに苦勞した。
- ・誰が見ても分かりやすい文や写真で構成していくこと。
- ・見やすくする工夫。
- ・壁新聞の内容が一般的に聞きなれない事なので、壁新聞だけで理解してもらうことは難しい。よって、いろいろな人に伝えるときには丁寧伝えていくことに重きを置きたい。

#### <時間の捻出>

- ・行事等で日々忙しく、ポスター制作に取り組む時間がなかなかとることができなかった。
- ・行事が詰まっていたり、大雪で延期されたり、職員が全員集まるのが難しかったりと予定とは大きく異なることも多かった。コロナの為時間短縮など、十分な研修時間が確保できなかった。
- ・職員が集まり、その時間を作ることはとても難しかった。
- ・研修内容を記録するだけでなく、初めて見た人にも伝わるようにまとめる必要があったため、ポスターを作成する時間を確保することが難しかったです。

- ・研修テーマ考える際に題材で悩み、内容等細かいところを決めるのに時間がかかった。日頃より、保育する上での疑問等考えておくとうかった。

#### <プロセスの中でまとめる難しさ・・・>

- ・ポスター作製チームとして数人の職員で園全体のまとめを行っていったが、チーム以外の職員の声や意見を拾ったり、チーム内でまとめていく過程は慣れない事もあった。
- ・日々の保育の振り返りを行い、その後、日々の保育でどう活かすことができたかの後追い。
- ・テーマが自由だったので、定めるのが難しく感じました。
- ・各クラスでは取り組んだが、みんなで話し合う機会が少なかったため、まとめ方

#### <職員間の温度差>

- ・取り組みに際して職員間で温度差が感じられた。コーナー毎に担当を決めて進めていったが、自らのアイデアを積極的に発信できるような雰囲気作りをしていきたい。
- ・その課題をその時だけでなく、常に継続していく点。

#### <個人情報と見える化のジレンマ>

- ・デリケートな内容だったので、実際の園内研修の内容を、どの保護者が見ても受け入れやすいようなものとして作成するのが苦勞した。先生たちの学び全てをそのまま見える化するの難しいなと思った。

7. ポスター以外に自園でされている「見える化」はどのようなものがありますか？（具体的にポートフォリオ ドキュメンテーション etc）

#### <ICT 等のオンラインの活用>

- ・HP×18園 ・ブログ配信・Twitter・Facebook 等×6園・Instagram×2園
- ・アプリを使った通信（動画含む）×3園
- ・WEB 配信 WEB 参観、YouTube（期間限定で）
- ・メール、フェアキャスト（連絡網）
- ・玄関先でのモニター
- ・動画配信×複数園

#### <紙媒体の利用>

- ・園だより、学年・クラスだより×多数、園長のつぶやき、園雑誌「糸」、PR誌を活用した広報、リーフレット作成配布、
- ・文章での日々の一言コメント、連絡帳
- ・写真の掲示（毎月）、活動前の子どもの計画を掲示、活動後に子どもの振り返りを掲示、園内に Before After の写真を掲示、掲示板
- ・ボードフォリオ（原文のママ）、ポートフォリオ、園児個人毎のアルバム（現段階ではポートフォリオとは言い難い）、卒業するときに渡す成長の記録（アルバムのように個々のものを作成）
- ・ドキュメンテーション×複数園

#### <実際の保育現場>

- ・環境整備 整理収納アドバイザーの先生の指導の下、園内のモノの整理。

- ・成果発表会
- ・クラス懇談会（写真や動画を使って）×複数園、
- ・研修についての「見える化」は特に行っておらず、そこで得た研修内容を日々の保育に活かし、子どもの変化から保護者に感じ取ってもらっている。

## 8. 自園で行っている（あるいは行いたい）「見える化」の課題は何でしょうか？

### <内容への想いと分かりやすさとのジレンマ>

- ・伝えたいことの取捨選択に気を使います。（思いが強いとついつい文字数が増え、そうすると伝わりづらかったりする。）
- ・幼稚園教育の中で大切にしているものは、習い事のように目に見えたり、すぐに成果が現れるものではないので、伝え方が難しいと感じます。
- ・行事やイベントに関係した子どもたちの様子は「見える化」しているが、日常の中にたくさんあるささいな子ども同士のやり取りやつぶやきなどが簡単に発信できるようにしたい。
- ・幼児教育によって遊びの中で育つ子どもの見えない力(想像力、表現力、メタ認知能力…)の学びをいかに保護者にわかりやすく伝えていくのが課題"
- ・保護者に文章で伝える際の分かり易さ。
- ・ホームページは頻繁に更新したり見やすいものになっていると思うが、その存在を多くのヒトにみてもらうような工夫

### <保護者とのズレ、双方向性>

- ・教師の意図と保護者の捉え方の違い。
- ・園活動や子どもの様子は保護者へ発信するよう意識はしているが、園内研修については保護者への発信は重要視していなかった。保育向上を含め、保護者へも発信する。
- ・発信した後の保護者の反応や想いを聞くためのツールや場所の確保。（一方的な発信になりがち）
- ・いかに興味をもって保護者が園の取り組みに参加していただけるか？協力者となっていたいただけるか？
- ・見える化した後きちんと伝わっているかなど相互の理解など。

### <発信の仕方、媒体など>

- ・保護者へどのように発信したらよいか。またその伝え方。
- ・自園の良いところや情報を多くの人に知ってもらうための手段について。
- ・ポスター等の掲示物は、園内に入ってもらえない現状で、掲示の仕方や場所で悩む。

### <人手、時間の捻出>

- ・人員が足りない、時間が上手に作るができない。
- ・まだまだデジタル機器を使いこなせないなので、職員の負担の軽減に結びつかない。
- ・ポートフォリオを目指したいが、人員が足りない。
- ・研修にあてる時間が足りない。特に、園全体で研修会を持つ、作業をする・ディスカッションする、製作活動をするという時間を取ることが難しい。
- ・認定こども園になり未満児が増えたことで、職員の勤務時間が揃わなかったり、製作の時間の確保が難しかったから時間とれませんでした。
- ・新しいことを試すということで、先生方の負担が大きくなるため

### <スタッフの意識>

- ・自分たちがしていることを、「見える化」と捉えられていない自分たち。
- ・撮影することへの意識・撮影者の確保

### <個人情報>

- ・コロナウイルス感染症防止対策で、園内への保護者の立ち入りが制限されてしまい、コミュニケーションなどが取りにくくなっているため、色んなツールを使って発信できたらと思います。発信媒体に対しての知識不足だったり、情報発信での個人情報保護だったり難しいと感じることがあります。
- ・写真や動画等に写っている量の個人差。(例えば、懇談等で保育理解の題材として写真を数枚取り上げると、他の子はどのくらいですか?となってしまう)
- ・育ちとして伝えたい内容を、どのように見える化すると、保護者の方に興味を持ってもらえるか、また伝わりやすいか?
- ・成長の記録のまとめ方、動画配信の画像の取り方

9. 昨年度ポスター発表交流研修会(2021年3月)に自園の教職員は参加されましたか? はい 14園 いいえ 13園  
参加したことで得た(学び)にはその後感想で頂きましたが、参加された先生方(あるいは園)でこの交流研修を契機に変わったことなどはありましたでしょうか?あれば具体的に教えてください。

- ・園内研修の重要性、及び持ち方を他園の方より情報として頂け、その後の自園の園内研修の持ち方が変わりました。(研修の日を保護者に周知し、その日は早めのお迎えを促し、全職員で行えた。)
- ・園内研修をするための時間の確保や全教師が参加できることなど、恵まれた環境におかれていることに気づき時間を大切に学びを深めていきたい。
- ・動画を使っただけの発表をさせていただいたのですが、新しい試みをしたことで発表の幅が広がった。
- ・様々な園での取り組みを聞かせて頂き、自園でも改善できる点や、次年度(今年度)に向けての課題が明確になったことで4月から職員間での話がスムーズに行えた。
- ・日頃の保育に関する悩みや気づきなど、些細な事でも職員一人一人が声を出し合うことで共有することができ、プラスの方向へ進むことができた。
- ・各園の園内研修への取り組み方や時間の捻出方法などが分かり、出来ることを自園でも取り組もうと工夫して取り組んでいます。
- ・発表の中でいいなと思ったアイデアを、今年度に入って実践している。
- ・今のところ大きく変わった部分はありませんが、日常的に話しやすい雰囲気を作っていく為に、以前に比べ普段から保育者同士のコミュニケーションを多くとるよう心がけています。

\*今年度も各園の園内研修の在り方を横につなぐ交流研修会をオンラインにて企画予定中(夏、冬)ですが、参加したい(希望)かどうか教えてください。 →参加したい とお答えの方へ どのような交流研修会を希望でしょうか?アイデアなどあればご回答ください。

- ・他園の研修内容を聞かせていただくことはとても実りになると考えますが、自園の研修に対して質問を受けても、学びが浅くお答えするまでに至らないのが現状です。オンラインですぐに質問には答えられませんが、例えば、各園からそれぞれのテーマに対する質問を募集し、時間を取りながら、できる範囲でいただいた質問に対する学びを園内研修で深め、何らかの形で各園に返答することは可能かもしれません。
- ・グループ形式で積極的に園内研修を行われている他園の様子を伺いながらのディスカッションができれば良いと思う。
- ・各園の取り組みがどのように考えられ、すすめられたかのストーリー的なものをお話いただけたら嬉しいです

・各自研究発表し報告するのではなく、他園の取り組みについて具体的な行程や苦労話等話し合いを行ってもよいのではないか。

<◆なお 10 以下の設問は WEB 研修に関するニーズ調査と各園の ICT 環境に関するものなので省略。>

(注 6) 二年目研修 (インリアル分析)・・・M 幼稚園では二年目の先生 (新卒採用で二年目、他園での経験があっても本園で二年目、本園を離れていた時期があり復帰して二年目) が、この子のことを知りたい、と選んだ配慮を必要とする対象児と自身に関わる場面をビデオ撮影し、その映像をやりとり (会話) として分析。コミュニケーションにおける子どもの特徴、大人の特徴、この二人の関係の特徴を見出し、大人の関わり方の目標 (できそうな小さなポイントで) を見出してやってみる。その関わりを撮影して・・・と繰り返し、3 回の分析を行うプログラムを園内研修として実施している (全員参加ではなく、初任、二年目保育者、同学年スタッフ、特別支援コーディネーター及び希望するスタッフにて)。

(注 7) キラキラ会・・・配慮が必要な子ども、育てにくいと感じる子ども、子育てに不安を持つ保護者が集まり、不安や悩みを分かち合い、親たちそれぞれの経験から学びあう会 (ピアサポート) として、月に一度開催。園の特別支援コーディネーターの保育者と、相談室スタッフ (言語聴覚士) も参加し、家庭での子育ての困りごとや、療育のこと、進路について等々の悩みを語り合う。時には卒園生の親御さんもゲストに迎え 子育ての見通しをたてたり、外部の飛び入り参加者などもあり、広く子育てに関することをおしゃべりしている会。

(注 8) おしゃべりカフェ・・・保護者が集まり、テーマに沿ってあれこれとお喋りする、保護者会主催の会。以前はおしゃべりウィークとして 5 回連続で 1 週間毎日行っていたが、負担が大きいため、近年では年に数回、分散して開催。テーマは毎回違い、例えば、2020 年度は「M 幼稚園を選んだのはなぜ? (7 月)」、「コロナの中みんなどう過ごしてた? (9 月)」、「M 園流 インクルーシブ保育の謎を解け (1 2 月)」の 3 回。なお保護者会顧問として毎回園長が参加を原則とするが、時に園の現場保育者が参加することも。

(注 9) ビデオトーク・・・学校週休二日制による土曜日を利用した企画。年少・年中・年長は年間二回、1 歳児・2 歳児は 1 回 (各担任担当 2 歳は満 3 歳と合同を入れると計 2 回)、該当学年の保護者対象に、子ども達の姿が映った保育中のビデオを見ながら、スタッフとお家の人で語り合い、気づきや発見を共有する会。ビデオの内容はクラス活動の様子だったり遊びの様子だったりとその時々テーマに沿ったもの。

(注 10) 育ちのノート・・・配慮を必要とする子の M 園の個別の教育支援計画。指導要録とは別に彼らの特徴やこだわり、エピソードを添えて当初は「育ちのカルテ」という名称で平成 16 年度から保護者と共に作成し学校へ引き継ぎ資料として活用。しかし「カルテ」が学校生活、秩序を乱さないような「処方箋」としての「ノウハウ」のように学校側に受け取れているような気がしてきたので、もっとプラスの視点で彼ら一人一人の育ちを整理して学校側に伝えていきたい、困難なことや課題もあるけれど、一人一人の特徴とカラー、学びと成長があることを整理して伝えたいと考え、平成 24 年に「育ちのノート」と改変。具体的には「空間」「モノ」「ひと」の視点からの合理的配慮や特徴的な事柄を 3 年間にわたって整理し、どのような配慮が集団生活上の安心感に繋がっているのか? その中でどのような学びを得ているのか? 等をフォーマットに記載。在園期間中は支援計画として園内で、就学時には保護者の協力のもと学校への引継ぎ資料として活用。

(注 11) この課題提起の背景には K 幼稚園のポスター製作の以下のような取り組み (園内研修含む) が背景にある。

◇現状・・・3 年前より「ドキュメンテーション」を用いて保護者に子どもの育ちを伝えるクラスだよりを発行している。子どもの様子や日々の保育活動を可視化できるクラスだよりは、テーマは決めず、各学年によって内容は様々である。保護者に子

どもの育ちをわかりやすく伝えていくかを日々考えながら、各学年間で話し合い作成している。ドキュメンテーションを用いることは、文章で伝えることが難しかった子どもたちの姿を保護者に伝えやすくなったと感じることが多く、保護者からも、子どもたちの表情がわかりやすく、文章とともに楽しい様子が伝わるという声を頂いている。しかし、職員の中には機器を用いることに慣れない保育士がいたり、様子は伝わるが、子どもの育ちを伝えられていない内容のものであったりと可視化することに慣れていない、子どもの育ちを伝える上でドキュメンテーションという手法を上手く使いこなせていない現状がある。

- ◇取り組みと目的・・・可視化することに慣れていない自園の現状を踏まえ、幼稚園協会でドキュメンテーションを用いたポスター発表に参加してみようと思った。ポスターにして可視化することで、今ある自園の課題を同僚間で話し合う機会が持てたらと考えた。自園は、園内研修や話し合いの回数あまり取れておらず、また、このコロナ禍で集まることに抵抗を示す職員がいることもあり、職員で話し合いが行えていない状況だった。そこで、各学年の取り組みをポスターにし、そのポスターを用いて発表し合い、園内研修してみようと思つみた。保育の取り組みについて各学年の先生と一緒にまとめることで、学年の保育の振り返りができる、その振り返りをもとに全職員で有意義な学び合い、話し合いができると考えた。また、このコロナ禍で、集まる回数も抑えられると感じた。
- ◇実践と振り返り・・・ポスターを発表し合い、話し合いの時間を作つた。発表することで、見えていなかった互いの保育活動や活動の内容が見え始めた。しかし、ポスターの内容を細かく見ていくと、子どもの育ちや保育の意図を感じる事があまりできないものもあり、保育士の意識の違いやポスター制作においては、作成することに意義を感じる保育士、感じない保育士と職員間の温度差を感じた。また、ポスターを用いた話し合いは、特定の先生(年配の先生)が話し、何か言われたら嫌だな・・・という思いから若手の先生の発信が少なく、意見が言えない。そこで、付箋を用いて思いを記入し、意見を出し合いたいと考えたが、このコロナ禍で、日々の保育+行事や保育活動の変更による対応に追われ、集まる時間が上手く取れず、昨年度は終わってしまった。
- ◇今後に向けて・・・自園は、認定こども園に移行し、全職員で集まる時間をうまく作ることができていない。また、日々の保育の仕事にプラスしたポスター発表は、負担を感じる職員も多い。だが、日々の保育をみんなで振り返ることができるポスター発表は、一つの伝達手段としてとてもメリットがある。そのメリットをうまく使えるように、今年度は、昨年の反省を踏まえ、取り組んでいきたい。

(注12) Y幼稚園の取り組み・・・令和2年度、絵本とその読み聞かせに関する園内研修を行い、そのポスター製作を行い掲示した。(ただ協会のポスター発表には申し込みはせず。)その時の課題を活かして、令和3年度は各学年の活動や生活の様子を画像付きで定期的に紹介する、壁新聞的なドキュメンテーションの掲示を園の玄関にて続けている。

(注13) 金沢支部研修は、金沢市及びその近郊市町にある私立幼稚園が集まって毎年行っている研修会。例年、テーマを決めて3つほどの研究会を支部の研修委員が立ち上げ、呼びかけを行い参加者を募る。2021年度の現在は、野外の遊びをテーマにし、各園の園庭環境を見学して回り野外遊びを深める、「遊ぼう研究会」、幼小連携をテーマに、10の姿を自園の中で見出す、「みこし研究会」(成長を見越した支援を行う研究会の略称)と並んで、新たにドキュメンテーション等の保育の「見える化」をテーマにした「見える化」研究会の三本立てで年間を通じて研修を行っている。

(注14) 研修プロジェクトチームは14名で活動。園内研修、マネジメント研修、乳児研修、保育実践の各テーマごとに活動中。幼児教育実践学会の今回の口頭発表も研修プロジェクトのメンバーが研修委員に加わってできたプロジェクトチームの一つである。

#### 幼児教育実践学会プロジェクトチーム

中谷薫(津幡とくの幼稚園) 山本さやか(同) 油田美沙(金石幼稚園)  
戸水景子(金沢幼稚園) 北口誠之(木の花幼稚園) 鮎川正(同)